

## シンクピア 生ごみ処理機に業務用追加

# CO<sub>2</sub>排出 焼却より96%削減

シンクピア・ジャパン（横浜  
市都筑区）は微生物を使って生  
ごみを水と二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）  
に分解する生ごみ処理機「シン  
クピア」に、業務用＝写真＝も  
追加した。焼却処理に比べて環  
境負荷が小さいことから、ホテ  
ルや食品加工、外食などの企業  
が関心を示しているという。

この生ごみ処理機は、繊維や  
油脂、タンパク質、炭水化物、  
においの成分などを分解する能  
力をもつ十数種類の微生物を括  
用している。微生物を培養・混  
合した処理液の中に、細かい穴  
が無数に開いた小石状の発酵素  
材を浸して微生物を定着させ、  
それを処理機の中に入れてごみ

を分解する仕組み。

処理機は韓国メーカーが開発  
し、同社が主に家庭用を国内販  
売してきた。「腐る前に処理す  
るため生ごみ臭がしない」（松  
岡清次社長）ことなどが評価さ  
れ約2000台の販売実績がある。


業務用機種も試験的に販売し  
てきたが、食品リサイクル法が



改正され、企業が食品廃棄物を  
減らす取り組みを強めているこ  
とから、需要が増大すると判

断。韓国メーカーから特許権を  
取得し、耐久性や使い勝手を高  
めた業務用機種を自社開発して  
本格的な販売乗り出した。

同社の試算によると、生ごみ  
を処分場まで運搬し焼却処理す  
る場合と比べ、CO<sub>2</sub>排出量を  
約96%削減できるという。

処理能力（1日当たり30～  
100kg）により数機種があ  
り、価格は147万～504万円。今  
後、さらに機種を充実させる。  
家庭用と業務用を合わせ今年度  
は約10億円の売上  高を目指す。

[HP掲載ページ](#)

[会社情報](#)